

積丹森便り

平成17年3月号 No.1

石狩森林管理署 積丹森林事務所

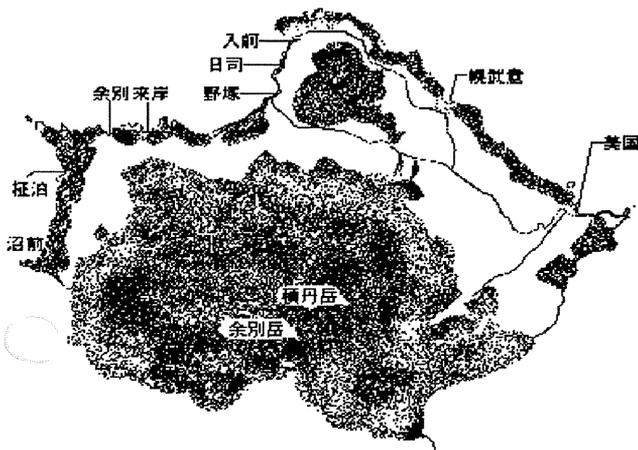
Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp

積丹の国有林

積丹岳、余別岳と海岸風景林

登山者やタケノコ取りで賑わう積丹岳・余別岳とその麓。岬の町しゃこたんと云われるほどの海岸の断崖と風景林。それらを中心に、積丹町にある国有林は約一万五〇〇〇㊦にもなり町の面積の六割以上を占めています。その多くは保安林に指定され、開発、伐採の制限を受けて水源や景観としての役割を果たしています。



※黒い部分が国有林

平成十一年に「営林署」は「森林管理署」と名称を変え、これまで以上に公益的機能を重視した管理経営に転換し業務運営を行っています。

積丹森林事務所は、旧余市営林署などを統合した石狩森林管理署の現地事務所として森林官一名が配置され森林の調査、植林や山の手入れ、山地災害復旧などの仕事を進めています。

漁業や観光の盛んな積丹町らしい国有林の山づくりにみなさまの声をお寄せください。

こんにちは、

積丹森林事務所です！

今年は何年にも比べ雪が多いと聞きます。春が一層待ち遠しくなる今日この頃です。昨年四月に積丹に赴任し四季を過ごしてきました。昔でいう営林署の担当区主任にあたる森林官という仕事です。積丹町の皆さまと話す機会がなかなか無く、また「どんな仕事をしているの?」とか「話をしたかったけれどどこにいるのか分からなかった。」と言った声を耳にしました。そこでこのような広報誌をつくり、森林事務所や森林管理署の業務紹介、季節の山の様子などをお伝えしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



山スキーで調査中

ソンメルスキーを知っていますか? 板の裏にアザラシの皮を張り付けた山スキーと云われているものです。アザラシの毛が逆立って後ろに進みにくくなるため、ちょっとした斜面を登っても大丈夫。雪の中、このソンメルスキーを履いて去年の台風で倒れた造林地の調査をしています。冬は、山を覆い尽くす笹が雪の下に埋まり、行くことが困難な場所にも行けるようになります。一面の白いキャンパスのような山に木々が立っている様子は、夏と同じ山とは思えません。虫や草たちの姿が見えなくなり、キツネや鹿、テン、ウサギなどの足跡がどこかへ続いています。ソンメルスキーの跡は、動物たちの目にはどう映っているのか、ふと聞いてみたくなりました。

積丹森便り

平成17年4月号 No.2

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp

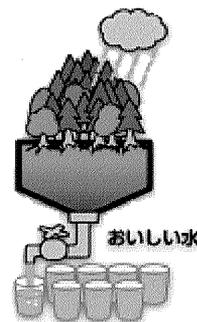
積丹のおいしい水

積丹岳の山小屋脇に水飲み場があるのを存じでしょうか？ 水質検査を受けた湧水で、町役場や山岳愛好会で管理して頂いています。私は仕事でここに寄ると必ずこの積丹岳の湧水を飲んでいきます。有名な名水よりおいしいとポリタンクを抱えて汲みに行く方もいるほどで、心なしか甘いような気がします。



水の味はその地域の地質、土壌などによって変化します。豊かな森林を通ってきた水がおいしいと思うのは、雪解け水や雨水に含まれるミネラルなどの物質のバランスを森林の土壌が整えてくれるからだとも言われています。

今冬のたっぷり積もった雪と積丹の山々を湧水で味わう。山の雪解けは少し先になりそうですが、密かにそんなことを楽しみにしながら山を歩いています。



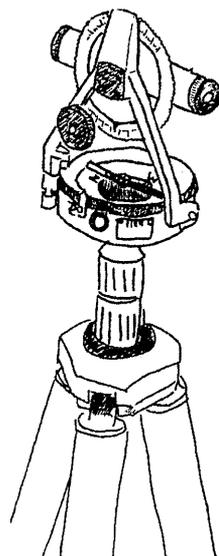
コンパス測量しています

昨年の台風で多くの木が倒れました。被害地については、なるべく早く早く森林に戻して森林の水を蓄える力や表土を保持する力などを取り戻す必要があると考えています。そのため、今後国有林では順次造林を行います。そこで必要なるデータの一つが、被害地(後の造林地)の面積です。面積はコンパスによる測量で求めます。コンパスというと山登りの時に持つていく方位磁石や、算数の時間に使う円を描く道具を思い浮かべる人が多いと思いますが、私たちが使っているのは下の絵のような形をしています。

小さな望遠鏡状の覗き口から次の測量点に立つ相手の持つポールに照準を合わせコンパスで方位や上下の角度を、メートル縄で距離を測り記録します。それを元の位置まで繰り返して記録した値を計算するとその場所の面積や形が分かります。

最近では、衛星を使ったGPSという装置を持って周囲を歩くだけで面積や位置を確定させる方法も試されています。

こうして求めたデータは図面に書き込まれ、今後の管理などの資料として活用されることになるのです。



測量に行くまでに出会う動物たちの数が増えました。雪が残っていても山がうきうきしている、山にいるとそんな雰囲気伝わってきます。今年もしっかりと春がやってくるようです。



積丹森便り

平成17年5月号 No. 3

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp

山火事にご用心

積丹町では、明治30年頃に大きな山火事があったといわれています。消失した緑を元に戻すには、多くの時間と労力が必要です。強い潮風のため木が育たず苦労をした様子が過去の文献に記されています。

20年ほど前の積丹岳の山頂火災では数十㌦の水を背負い消火に行ったという話を聞きました。消火に数ヶ月掛かったという海外の山火事ニュースも聞きます。山火事への対応の難しさ、被害の規模の大きさに気付かされます。

5月、6月は山火事の起こりやすい時期です。枯葉や枯枝が地表を覆っていることや強い風と乾燥した空気などがその理由ですが出火の原因となるのは、やはり人の不注意によるものが多く、タバコの不始末やたき火などの火遊びなどが出火原因とされています。豊かな緑を守るためには山に入る一人一人の心がけが大切です。皆さまのご協力よろしくお願致します。



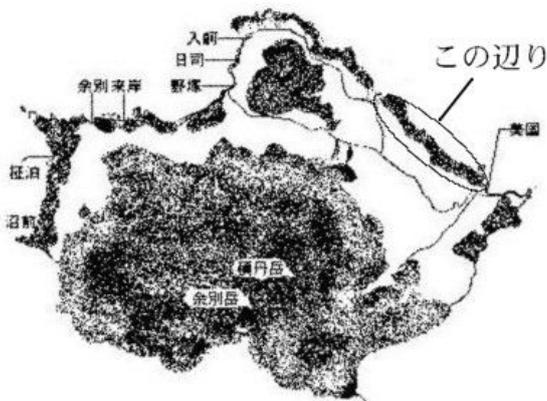
積丹・古平海岸風景林

森林事務所の業務の一つに国有林の周囲を点検する境界巡検(けいかいじゅんけん)があります。積丹森林事務所が管理している国有林の周囲の延長は約260km。毎年点検しているところもありますが、残りは10年で一通り点検ができるように計画を立てて廻っています。国有林の周囲といっても、大概は山の奥にあります。自分のいる場所が分からなくなると帰る道もありません。そんな中で、図面などを頼りに歩くこととなります。

黄金岬から積丹岬にかけて海沿いには断崖絶壁が続きます。そのほとんどが国有林で今年はその一部を点検してきました。



崖から数メートルのところも歩くので慎重に点検を進めます。



この一帯は全国に55箇所ある国定公園の一つに指定され、安山岩や集塊岩などからなる奇岩怪石の海食風景に多くの観光客が魅せられています。殆どの方は対岸や海から眺めるこの場所ですが、歩いて回ると色々なことが分かります。過酷な環境の中で生えるのはイタヤカエデやカシワといった限られた樹種です。絶壁も一種類ではなく茶色で土気のあるところがすり鉢状に崩れたもの、黒っぽいゴツゴツした岩が残ったもの様々な表情があります。そして融雪期には小さな滝も現れます。この辺りの雪解け水は目の前の海には流れず陸の方に流れていきます。大きく遠回りをして積丹川に流れるのです。積丹の海が青い理由の一つかもしれない、などと考え自然の成り立っているバランスに感心しながら点検結果を調査簿に書き、点検を終えました。

積丹森便り

平成17年6月号 No. 4

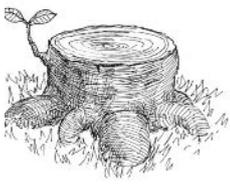
石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp

新緑眩しい季節です

カタクリ、シラネアオイ、ニリンソウ等があちこちで咲き、草や新芽で山に彩りが出てきました。そんな中でふと山の匂い、森林の匂いに興味を持ち台風で倒れた木を切っている現場で、業務の傍ら様々な木の切り口の匂いを嗅いでみることにしました。時間が経っているせいか、あまり匂いがしないものもありましたが、カンバは水々しい微かな甘みを想像させる匂い、ミズナラは、少し粉っぽい渋みのある匂い、キハダは木の実のような香ばしい匂い、トドマツは、爽やかな青々とした匂いでした。木の匂いは、薫製や酒樽などに利用され味わうこともあります。木の匂い成分には防虫効果があったり、リラクセスするのにも良いと言われています。私たちの生活の中でも意外なところで木の匂いに出会うかもしれません。何十年、何百年と生き続けた森林の匂いが生活の一部になっていると思うとなんだかロマンを感じます。



国有林の現況把握を行なっています

森林には、環境保全や水源林、木材生産などの様々な機能があります。国有林では地域ごとに重点的に発揮させる機能を定め、その森林にあった手入れを行なっています。森林の機能が十分に発揮されているか、より機能を高めるにはどのような手入れが必要か、そんな森林現況の把握は森林事務所の重要な業務です。

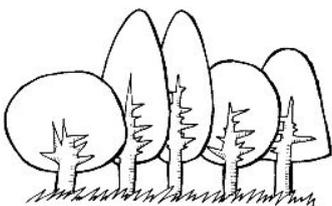


現況把握のための調査は、森林を一定の区域に分け、その区域ごとにどんな木が(樹種)どの位あるのか(蓄積)などを調べます。同時に希少な動植物が存在しないか、ネズミや鹿、昆虫などの被害を受けていないか、植林した木が順調に育っているか、といった様々な視点で森林の状態を確認します。

最初は、どの森林も同じに見えましたが、沢山の森林を見て歩いてみると、比較する対象も増え樹皮の色で木の健康状態を把握したり、植えた木が成長できなかった原因が地形、病害虫、手入れの遅れといったどの原因に因るものかを推測できるようになります。

山では今後の方針などを考える一方、客観的な数値、状態を記録します。こうして集まったデータは、森林事務所の業務で利用するほか国有林の事業方針の基礎や統計の資料となり活用されることとなります。

手入れや植林の効果はすぐには現れません。しかし、それが無駄にならないよう50年後、100年後の森林を想像しながら、山を歩き調査を行なっています。



積丹森便り

平成17年7月号 No.5

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp



神威岬に咲くエゾカンゾウ

エゾカンゾウの季節

エゾカンゾウは積丹町の花です。毎年6月から7月にかけて積丹町の急斜面や神威岬などで黄色い少し大きめの花を咲かせます。エゾゼンテイカとも呼ばれるこの花は、朝開き、夜閉じる一日花で、幾つかのつぼみをつけ順番を待つように咲いていきます。そんな花の性質からか、薬草としての効用からか「忘れ草」の別名もある少し神秘的な花です。海の青、草木の緑とエゾカンゾウの鮮やかな黄色に彩られた風景に足を止めしばらく眺めていると、ふっと心が軽くなります。少し足を延ばし忘れ草の効能を試してみませんか？

積丹岳山開き

例年より雪解けの遅い積丹岳に、去る6月19日、山岳愛好会の皆さんと登ってきました。積丹岳は、標高1255mで、410mの地点にある山小屋までは車で行くことができます。カラマツと樺の林を縫うように登山道が始まり、山頂までは様々な高山植物やミズナラなどの巨木を見ることが出来ます。今回は残念ながら曇りでしたが、立ちこめる霧の中の積丹岳も幻想的な魅力に包まれていました。



国有林では、積丹岳の登山道を中心にこの一帯を「森林空間利用タイプ」の森林と位置づけ、森林パトロールの実施などによる自然環境の保全や既存の人工林が様々な樹木で構成される混交林になっていくような手入れを行なうなど、地域の特性に合った管理運営をしています。町民の皆さまの声もお待ちしております。

山に登ると、必ず目に付くのが人の投げたゴミです。自分のゴミは自分で持ち帰り、気持ちよく山を楽しみましょう。

◇西河治山工事中

昨年の3月に発生した西河土石流災害の緊急治山工事を行っています。後志支庁や積丹町と協力しながら、国有林では、谷止工（コンクリートのよう壁により土石流を止める工法）土止工（コンクリートなどで斜面を固定させる工法）を中心とした工事により、今後の土石流災害を未然に防ぐこととなります。引き続き今年度も安全第一で工事を行いますので、ご協力よろしくお願いたします。



積丹森便り

平成17年8月号 No.6

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp

夏真っ盛り！

〔保育作業やつていきます〕

山では鮮やかなオレンジの車百合が咲いています。暑い日も多くなり、日が長くなったのを感じます。木も草も盛んに成長するこの季節、山では下刈り（したがり）作業が行なわれます。下刈りとは、植林した木に十分な光が当たるように周りの笹や草を刈り払う作業です。背丈ほどもある笹や草などに比べ、植えたばかりの苗木はひざ丈程度です。周りの笹、草より成長の遅い木はそのまま放っておくと枯れてしまいます。そこで植えた木が周りの笹や草より高くなるまで下刈りをおこなうのです。下刈りは通常、6年から10年かかります。



下刈りをして地面に陽があたると、笹や草以外にも広葉樹の芽が出てきます。以前は、植えた木以外はほとんど刈り払っていましたが、現在は自然にはえてくる広葉樹の稚樹をなるべく刈らずに残して針葉樹、広葉樹の混じり合った林になるような下刈りをしています。

暑い中の作業ですが、すくすくと成長する木々の将来を楽しみにしながら今日も作業が行なわれています。

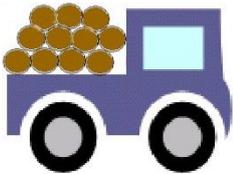


美国地区 台風被害木の

処理始めました

昨年からの順次取りかかっている台風の被害木処理ですが、美国地区でも倒れた木を片づける作業を始めました。

木材を運搬する運材車が通ります。安全運転で通行しておりますので、ご理解ご協力お願い致します。



山へ入るときには

積丹岳での遭難が続いています。山に入る際にはまず遭難しないように、

- ・地図・コンパスを持つ
 - ・目印を付ける（帰りに外しましょう）
 - ・複数で声を掛け合いながら行動する
 - ・天気予報などで気象情報を確認する
- また、万が一遭難した場合に備え

- ・家族等に行先と帰る時間を伝える
- ・携帯電話などの連絡手段を持つ
- ・赤やオレンジなどの明るい服を着る
- ・雨風を防ぐカッパなどを持つ
- ・飴、チョコレートなど非常食を持つ

といった準備を事前に行ない、安全で楽しい山登りをしましょう。



積丹森便し

平成17年9月号 No. 7

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp

植付けの準備をしています

幌内府川を上がっていくと昭和7年に植えられた立派なアカエゾマツの造林地があります。ここでも昨年の台風で沢山の木が倒れました。

倒れた木を運び出し、今は植付けの前の「地拵え（じごしらえ）」という作業が行なわれています。地拵えとは、苗木を植えるためのスペースを確保するために障害物を除去することで、倒れた木を伐り出した後に残った伐根や枝の整理、根倒れでできた土地の凹凸などを整えています。

今年是这样した地拵えを終えた約5畝に1万本程のアカエゾマツを植えることとなります。

アカエゾマツは、もともと自然に生えている郷土樹種であること、現地のように水分を多く含む粘土質の土壌でも育つ樹種であること、材の需要が今後も堅実だと思われることなどから、再び同じ樹種を植えることにしました。



地拵えの風景

北海道の木

「エゾマツ」

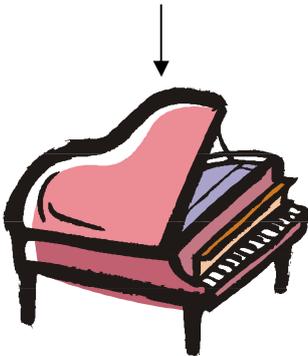
一般的に「エゾマツ」と言われる木は、エゾマツ（アカエゾマツと区別するためにクロエゾマツとも言われます）とアカエゾマツのことを指します。「エゾマツ」は、

- ・北海道特有のもの
- ・北海道の発展を象徴する力強いもの
- ・広く親しまれているもの
- ・姿の美しいもので風格のあるもの

などの理由で昭和43年に北海道の木として選ばれ、道民の皆さまに親しまれています。

木材としては、腐りやすいという欠点があるものの、均質で割れや狂いが少ないことから建築材（柱、内装材など）を始め様々な用途に使われています。アカエゾマツの中でも、年輪の狭いものはピアノの反響板に使われるなど、信頼性の高い材と言われています。

この蓋の部分が反響板



トドマツ



エゾマツ

北海道の代表的な造林樹種トドマツ・エゾマツの見分け方

- ・天までとどけ、と枝を上伸ばしているのがトドマツ
- ・十分伸びた もうええぞ、と枝を下げているのがエゾマツ

積丹もかつては、アカエゾマツの大木・巨木が点在していたと言われていますが現在では天然のアカエゾマツはほとんど見ることができません。しかし、もともと自然に生えていた郷土樹種であれば積丹の気候はアカエゾマツにとって適していると考えられます。

60〜80年経つと十分利用可能な大きさ太さになりますが、一斉に伐採されることはなく、部分的な伐採を行い、次の世代の木々が成長するまで伐採を控えるなど森林全体の状況を考えながら施業を行っていきます。森林の様々な機能を維持しながら、計画的・安定的に木材を供給していくことも国有林の重要な役割です。

積丹森便り

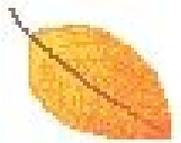
平成17年10月号 No.8

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp

紅葉の季節



山の中ではツタウルシが赤く色づき始めています。木に絡みついていて姿をよく見かけますが、地面を這って生えている一面のツタウルシが紅葉すると、真っ赤な絨毯が敷き詰められたような見事な光景が広がります。

今年の紅葉の見頃はいつになるのか、などとふと考えますが、きつと草木は紅葉が数日遅れても慌てることなく自分のペースで変化していくのだと思います。同じ山の中でも、隣り合っている木でさえも紅葉の早さが違います。光、水、養分、気温など様々な条件の違いを受け入れ、ゆっくり正直にかたちにしていきます。森林を見ていると安らぐ、森の中に入ると落ち着くといった効果は、そのようなありのままの姿で自然の時間が流れているからなのかもしれません。

葉の一枚一枚が山を染めるこの短い期間、秋は少し特別な季節だと思えます。



ツタウルシ

三枚一組で少しツヤのある葉をつけている。かぶれることがあるので注意

転多の沢上流

トドマツを植栽

台風の被害地への植え付けが進んでいます。西河町転多の沢を上った被害地ではトドマツを植栽木として選びました。

トドマツは、北海道の全域で自然に生えており、また北海道で最も多く人の手で植えられた木です。建築材などに利用され、その白い木目には根強い人気があり、柱や内装といった様々な用途に使われます。

なぜトドマツが最も多く植えられたのかというと、植え付けが盛んに行なわれた戦後の復興期、成長期において用途が広く、材価が高く、ネズミや病気などの被害に強かったことがあげられます。現在では、積極的に植えられているわけではありませんが、その諸被害に強い性質や多少暗い所でも成長する性質、植えてからの数年間の伸びが良く比較的手間がかからないことなどから、北海道の主要な植栽木として活躍しています。

台風被害のあったこの箇所については、草地や笹地になることを避け、なるべく早く森林としての機能を回復することを目的にトドマツを選びました。ミズナラ、カンバなどの広葉樹の植え付けや種蒔きも検討しましたが、より確実な方法として自然に生えてくる広葉樹を生かし、植

えたトドマツと一緒に育てることで針葉樹、広葉樹のバランスのとれた針広混交林を目指します。芽を出したばかりの広葉樹は草や笹と見分けがつきにくく下刈りの時に注意が必要です。また針葉樹と生長のスピードが異なるために管理が大変難しくなります。しかし、分解の早い広葉樹の葉が肥料になったり、病気や害虫の発生を抑えたりとメリットもあります。



トドマツを植えた脇には早くもミズナラの芽が出ていました。今後の生長が楽しみです。引き続き台風被害地の復旧が続きます。ご意見、ご要望をお寄せください。

野ネズミの調査

国有林では、9月に全道一斉の野ネズミ調査が行なわれました。植えた木がかじられ枯れてしまう野ネズミの被害は、以前に比べ減少したものの未だに所々で見かけます。管轄内における今回の調査では、被害の主な原因となるエゾヤチネズミは確認されませんでした。野ネズミの生息数を把握し大切な木々への被害発生を未然に防ぐためにこの野ネズミの調査は毎年行なわれています。



積丹森便り

平成17年11月号 No.9

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp

読書の秋

10月27日から11月9日までは「読書週間」です。現在入手可能な国内で出版された書籍はおよそ71万点。多くの本の中で、一冊の本との出会いは時に人生を変えてしまうといわれています。そんな一冊を探す手引きとして「心にくる緑の本 50選」を紹介したいと思います。(裏面をご覧ください)

「心にくる緑の本 50選」は、樹木や森林などに関わる話のうち一般投票で選ばれた50冊を取りまとめたものです。絵本から文学、ノンフィクションと幅広く選ばれ、どれも読者の方々の心にのこった良書ばかりです。もちろんこの50冊以外にも素晴らしい本がたくさんあります。忘れられない一冊と出会う、そんな秋になるといいですね。



最近読んだ「心にくる緑の本 50選」

◇ 木を植えた男

不毛の大地に緑をよみがえらせようと、何十年にもわたりドングリを植え続けた老人のお話。47ページの絵本でもとても読みやすい。読後、ドングリを拾いに行きたくなる一冊。



◇ 木に学べ 法隆寺・薬師寺の美

お寺や神社を専門に扱う宮大工の棟梁である西岡常一さんの語りをまとめたもの。木は、自然環境によって育ち方が違い、それぞれクセをもっている。木を組む時は、そのクセを見抜き、生かすのだという。人も同じだと語る棟梁の経験に基づいた言葉は説得力に溢れている。読後、まったく興味の無かった法隆寺を見に行きたくなる一冊。

植付け作業

林業も機械化が進んでいます。が、まだまだ多くの作業が人の手によって行なわれています。植付け作業は100%人力です。クワを振り一本一本苗木を植えていきます。山でクワを振るときには進行方向があり、斜面の下から上に進みます。当たり前の話ですが、下に向かってクワを振ると、無理な体勢になり勢い余って斜面を転がってしまいますのです。



苗木は苗畑(なえはた)という別の場所で種から育てられ、だいたい5年位、30cm程度になったものが山で植付けされます。林業では植付けされた年から木の年齢を数えるので、今年植えた木の林齢(りんれい)は0年生です。植えられた苗木は冬の寒風を雪の中で過ごし、来年の春、雪が溶け暖かくなると新しい根を広げて、その場所に根付きます。来年の春には元気な姿で再会できることを願いながら丁寧に植え付けをしてきました。

積丹森便り

平成17年12月号 No.10

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki_taniguchi@rinya.maff.go.jp

今年も残すところあとわずかになりましたが、いかがお過ごしでしょうか？
町中では積もっては溶けていく雪も、山の中ではしっかりと根雪になりそうです。森林事務所では、さっそくスノーシュー（かんじき）を用意し山に入りました。雪が笹やぶを覆い尽くすこの季節は、森林の調査に好都合なのです。



木の葉も落ちすっかり見通しの良くなったこの時期（十二月十二日）には「山の神」もやってきます。山の木々を一本一本勘定し、山の状況を確認するので、その日、山で仕事をする私たちは作業を控え「山の神」に今年の作業中の御加護と山の恵みに感謝をし、来年の安全と豊かな幸を祈願します。

今年はどうな一年でしたか？あとひと月ですが、慌ただしい時期です。怪我や病気などをなさらず、よいお年をお迎えください。

山の仕事もハイテク化

宇宙から森林管理

石狩森林管理署では試験的にGPSを業務に活用しています。GPSとは人工衛星を利用して自分が地球上のどの位置にいるのかを把握するシステムです。カーナビや船舶の位置情報でおなじみの装置ですが、最近では携帯電話にも組み込まれるなど小型化され、性能もよくなっています。

これまでは地図を片手に、尾根や沢の位置、形などから自分の現在地を推測していましたが、導入された手のひらサイズのGPSを利用すると条件が良ければ5メートル程の誤差で現在地を把握でき、森林整備が必要な場所、面積の把握などに役立つこととなります。今後の森林管理の力強い味方になってくれそうです。



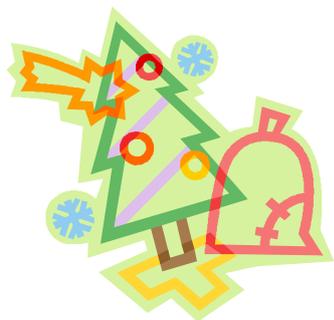
電子メールで読む



「林野庁のメールマガジン」創刊！

林野庁では、「地球温暖化防止森林吸収源10年対策」をはじめとする森林・林業施策について、国民のみなさま方のご理解を深めていただくために、『森林（もり）づくりと木づかいの便り』を創刊しました。

このメールマガジンでは、林野庁の施策を紹介するだけでなく、森林ボランティアに関する情報やイベント情報など幅広い情報を掲載し、原則として毎月1回、20日に発行しています。どなたでも無料でご利用できますので、是非とも登録ください。



詳しくは、林野庁ホームページ
<http://rinya.maff.go.jp/>
をご覧ください。